

■早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI) 第13回 原子力政策・福島復興シンポジウム 「東日本大震災と福島原発事故から13年～福島・中間貯蔵施設の現状と未来～」ご案内

早稲田大学は、早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)主催「第13回原子力政策・福島復興シンポジウム：東日本大震災と福島原発事故から13年～福島・中間貯蔵施設の現状と未来～」を、2024年3月9日(土)13:00-17:00、オンライン開催します。多くの皆様の参加を呼びかけます。

■本シンポジウムの目的

中間貯蔵施設は、2011年3月の福島第一原子力発電所(1F)事故による福島県内の除去土壌などを、最終処分までの間、集中的に貯蔵する施設として、1Fを取り囲む形で大熊町・双葉町の約1,600haが整備されたものです。2015年3月から除去土壌の搬入が開始され、現在、除去土壌の搬入はほぼ終わりました。搬入開始から30年後の2045年3月には除去土壌は県外で最終処分することとされています。除去土壌の減容化と8,000ベクレル/kg以下の除去土壌の再生利用政策が進められています。本シンポは、福島復興と廃炉に密接に関連する除去土壌の再生利用政策や2045年以降の中間貯蔵施設の将来像を広く深く議論します。

■開催概要

- ・日時：2024年3月9日(土)13:00～17:00
- ・方法：オンライン (Zoom)
- ・主催：早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI) <http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/index.html>
- ・後援：早稲田大学アジア太平洋研究センター(WIAPS)
早稲田大学環境総合研究センター(WERI)
- ・参加申込：ご所属・お名前を書いたメールを、事務局の任さんへお送りください。Zoomアドレスなどをご案内します。申込先メール：haneka.nin@fuji.waseda.jp
- ・問い合わせ先：シンポジウム事務局 haneka.nin@fuji.waseda.jp

■プログラム

総合司会：藤原広行(防災科学技術研究所・上席研究員、地震学)

開会挨拶：中嶋聖雄(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・研究科長、社会学)

小野田弘士(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・研究科長、環境工学)

シンポジウム

コーディネーター：松本礼史(日本大学生物資源科学部・教授、環境経済・政策学)

竹内真司(日本大学文理学部・教授、地球科学)

13:10-14:10:報告(各15分)

1. 中間貯蔵施設の現状と課題
行木美弥(中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)中間貯蔵事業部・部長)
2. 中間貯蔵施設周辺復興地域の融合的な環境再生・環境創生に向けた研究
遠藤和人(国立環境研究所福島地域協働研究拠点(廃棄物・資源循環研究室)・室長、環境地盤工学)
3. 除去土壌の再生利用：中間貯蔵施設と1F廃炉の将来像を考える
井上 正(電力中央研究所・名誉研究アドバイザー、1F地域塾・副塾頭、原子力工学)
4. 中間貯蔵施設の将来計画のあり方
黒川哲志(早稲田大学社会科学総合学術院・教授、1F廃炉の先研究会、行政法)

(休憩10分)

14:20-15:10:コメント(各10分)

山根辰洋(一般社団法人双葉郡地域観光研究協会(F-ATRAs)・代表理事、双葉町議会議員)

村松直樹(高レベル放射性廃棄物の管理・処分に関する市民会議・参加市民)

寺本 剛(中央大学理工学部・教授、哲学)

森口祐一(国立環境研究所・研究担当理事、1F地域塾・副塾頭、環境システム学)

崎田裕子(環境ジャーナリスト、1F地域塾・副塾頭、福島再生塾・運営委員)

松岡俊二(早稲田大学アジア太平洋研究科・教授、1F地域塾・塾頭、福島再生塾・塾頭、環境経済・政策学)

15:10-16:50:総合討論

閉会挨拶：松岡俊二(早稲田大学レジリエンス研究所・所長、早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター・センター長)